

Software Rights Management

Sentinel SuperPro

トラブルシューティングガイド

Sentinel SuperPro 利用時の問題の対処方法



目次

Sentinel System Driver/Protection Installer について	3
SPI/SSD インストール時のトラブルシューティング	5
SSD/SPI インストール時に発生するエラーの例	7
Sentinel SuperPro の FAQ	8
Sentinel SuperProNet の FAQ	13
Sentinel SuperPro Evaluation Program (sproeval.exe)	16
サポート問い合わせ時に必要な情報について	18

Sentinel System Driver/Protection Installer について

Q: SPI とSSD というドライバがあります。どちらを使えばよいですか？

A: Sentinel Protection Installer (SPI) はネットワーク環境で利用するために、Sentinel System Driver(SSD)の他に Sentinel Protection Serverがパッケージに含まれています。スタンドアロンライセンスキー(例:SGS XXXX)をご利用の場合、Sentinel System Driver(SSD)のみインストールしてください。

Q: 最新のSPI とSSD はどこから入手できますか？

A: Customer Support Portal から入手してください。

<https://gemalto.service-now.com/csm> (“SuperPro” で検索)

Q: System Driver をインストールすると再起動を促す場合と全く再起動を求め無い場合があります。センチネルドライバをインストールした際、再起動が必要となる条件は何ですか？

A: マシンをリブートするのを決めるのはランタイム・アクティビティで、おそらくシステムにも依存しています。リブートが必ず起きる、あるいは起きない、特定の OS や構成といったものはありません。

Q: どうやったらSPI/SSDがインストールされているか確認できますか？

SAMツールを使用するとSPI/SSDがマシンに正常にインストールされているか確認することができます。

Q: SAM ツールとは何ですか？

A: SAM ツールとはSentinel Advanced Medic の略です。SAM ツールはSentinel Driver、Sentinel Server とその全てのコンポーネントが正しくインストールされたかを検知するために使用されます。

SAM ツール入手先:

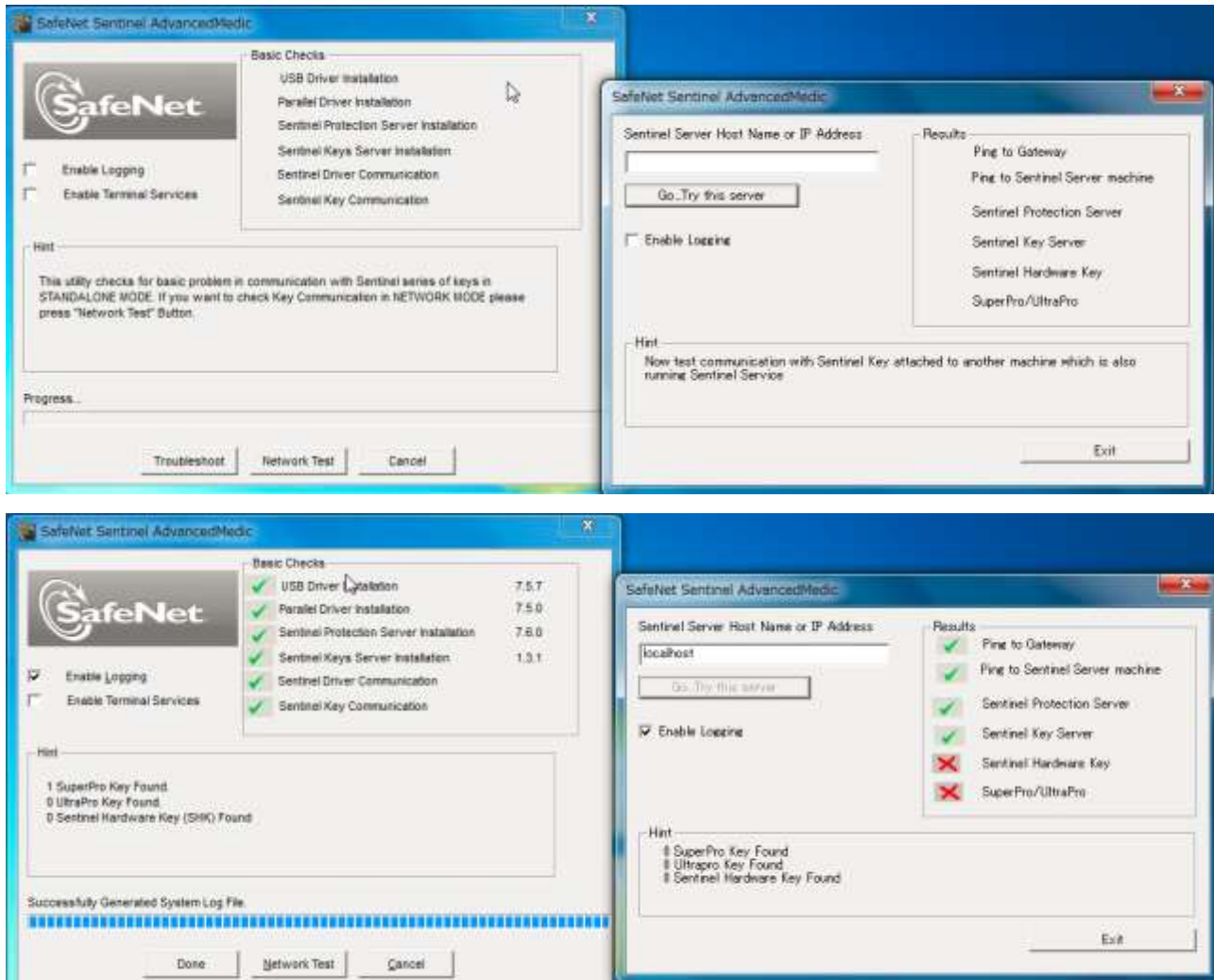
<https://gemalto.service-now.com/csm> (“Sentinel Advanced Medic” で検索)

Sentinel Advanced Medic 1.3.1 (Windows7 32/64bit 動作確認済み)

SAM ツールの使い方:

1. Sam1.3.1.exe を起動します。
2. Logを作成したい場合、Enable Logging にチェックをいれます。
Sam1.3.1.exe と同じフォルダに診断結果が保存されたSentinelLog.txt が作成されます
3. リモートデスクトップなど、リモート環境からのアクセスを許可したい場合、
Enable Terminal Servicesにチェックを入れます。
4. Standalone モードの場合、画面下、一番左側のボタン「Troubleshoot」を押すと
Basic Checks 画面に結果が表示されます
5. Network モードの場合、「Network Test」ボタンを押すとSentinel Server Host マシンの名前
またはIPアドレスを入力するテキストボックスが表示されます。
値を入力し、「Go Try this server」ボタンを押して診断を開始してください。

(SAM ツール画面↓)



Q: SPI/SSDインストール時にインストールログを作成することはできますか？

A: MSIインストーラのオプションスイッチをコマンドプロンプト上で指定することでインストールログを作成することができます。

例: 下記の例ではCドライブにlog.txtというインストールログを作成します。

¥<exeファイルのディレクトリ>¥" <インストーラ名>.exe" /v" /l*c c:\log.txt"



SPI/SSD インストール時のトラブルシューティング

Sentinel System Driver (SSD)/Sentinel Protection Installer (SPI) のインストール時に問題が発生した場合、下記対処方法をお試しください。

一般的な対処方法:

1. 最新の SSD または SPI、SSD Cleanup ツールを下記サイトより入手してください。
(参照 : Q: 最新の SPI と SSD はどこから入手できますか?)
2. SuperPro キーをマシンから取り外してください。
3. 管理者権限でマシンにログインしていることを確認し、可能であればアンチウイルスやファイアウォールの制御を無効にしてください。
4. 古いドライバが存在していないことを確認するために、Sentinel System Driver Cleanup Tool(SSD Cleanup ツール)を利用してドライバのアンインストールを実施してください。

SSD Cleanup ツールはマシンにインストールされている SSD/SPI および SuperPro、Sentinel Hardware Key、Sentinel RMS の開発キット、ライセンスマネージャをアンインストールします。

5. SSD または SPI を管理者として実行しているコマンドラインから次のオプションでインストールします。

例: SSD v7.5.9 または SPI v7.6.8 の場合

```
“Sentinel System Driver Installer 7.5.9.exe” /v /! *v c:%log.txt”
```

または

```
“Sentinel Protection Installer 7.6.8.exe” /v /! *v c:%log.txt”
```

Cドライブ直下にインストールログ(log.txt)が生成されます。

インストールがうまくいかない場合、生成されたログとマシン情報(.nfo 形式)をサポートまで送付ください。

新規アカウント作成による対応方法:

SSD/SPI がインストールできない対象 OS で、管理者権限をもつ新規ユーザアカウントを作成し、SSD/SPI インストーラを適用することで問題が回避可能か試してください。

MSI インストーラエラーが原因で Sentinel System Driver がインストールできない場合、
次の方法を利用してドライバを適用してください。

方法 1:

Sentinel System Driver 7.5.x/Sentinel Protection Installer 7.6.X.msi ファイルを直接実行
(msi error 1620)

手順 1: SSD または SPI をインストールしたいマシンと同じマシン(32bit/64bit)にインストールします。

手順 2: インストールしたマシン内の下記のディレクトリを対象マシンの同じパス上に配布し、msi を実行します。<ユーザ名>は各マシンのユーザ名に置き換えます。)

SSD v7.5.9 の例: C:\Users<ユーザ名>\Documents\Downloaded Installations\{8393E8C8-DBE7-4027-B34D-04E3F090178E}\Sentinel System Driver Installer 7.5.9.msi

SPI v7.6.8 の例: C:\Users<ユーザ名>\Documents\Downloaded Installations\{2D54F873-757F-4DCB-AE4A-67EA47D8D390}\Sentinel Protection Installer 7.6.8.msi

方法 2: (SSD のみ)

別マシンで正常配置されたドライバファイルを手動で配置およびデバイスに適用

手順 1: インストールしたいマシンと同じ OS アーキテクチャ(32bit/64bit)の別マシンに SSD をインストールします。インストール完了後上記マシン内の下記フォルダを対象のマシンの任意のフォルダに配置します。

32bit マシン:/Program Files/Common Files/SafeNet Sentinel/Sentinel System Driver

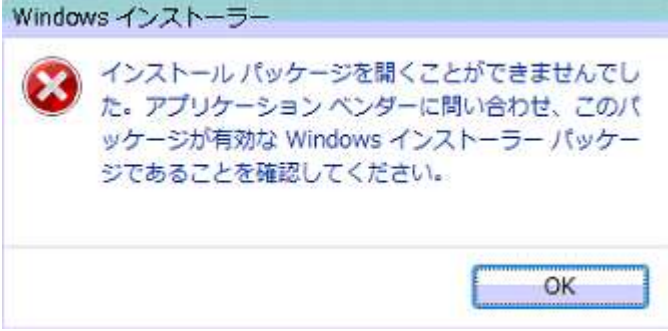
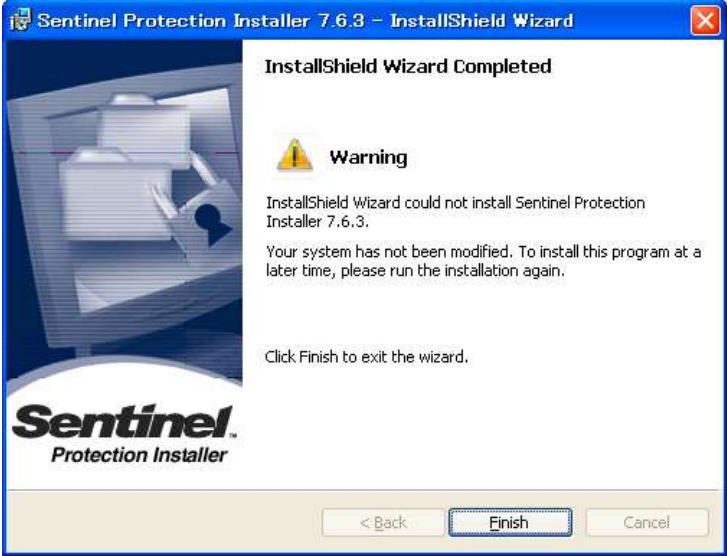
64bit マシン:/Program Files(x86)/Common Files/SafeNet Sentinel/Sentinel System Driver

手順 2: 対象マシンに SuperPro キーを接続します。

手順 3: デバイスマネージャより不明なデバイスまたは ! マークが表示されている SuperPro キーを選択してください。右クリック->ドライバーソフトウェアの更新->コンピュータを参照して...->Sentinel System Driver フォルダを選択->「次へ」を実行し、ドライバを適用します。

手順 4: SAM ツールやプロテクトされたアプリケーションを起動し、SuperPro キーが認識されているか確認してください

SSD/SPI インストール時に発生するエラーの例

 <p>Windows インストーラー</p> <p>インストールパッケージを開くことができませんでした。アプリケーションベンダーにお問い合わせ、このパッケージが有効な Windows インストーラーパッケージであることを確認してください。</p> <p>OK</p>	<p>MSI エラー1620 の可能性があります。「MSI インストーラエラーが原因で Sentinel System Driver がインストールできない場合、次の方法を利用してドライバを適用してください」をお試しください。</p>
<p>A newer version of the Sentinel Keys Protection Installer was found!</p>	<p>適用しようとしている SPI/SSD よりも新しいバージョンがすでにインストールされています。</p>
 <p>Sentinel Protection Installer 7.6.3 - InstallShield Wizard</p> <p>InstallShield Wizard Completed</p> <p>Warning</p> <p>InstallShield Wizard could not install Sentinel Protection Installer 7.6.3.</p> <p>Your system has not been modified. To install this program at a later time, please run the installation again.</p> <p>Click Finish to exit the wizard.</p> <p>Finish</p>	<p>「Your System has not been modified…」は様々な要因により発生します。「一般的な対処方法」を実施し、問題が解決されない場合、インストールログを取得の上サポートまでお問い合わせください。</p> <p>関連事項：</p> <p>グラフテック社のGL820 の付属ソフト（データロガーソフト）GL220A/GL820 用 PC ソフトウェア Ver. 1.02 を使用している場合、左記のエラーメッセージが表示されます。ソフトウェアを停止してからSPI のインストールを行ってください。</p>

Sentinel SuperPro の FAQ

SuperPro の動作環境について:

Q: Sentinel SuperPro は Windows8/8.1、Windows Server 2012/2012R2、Windows10 に対応していますか？

A: Sentinel SuperPro USB キーの認識は Sentinel System Driver v7.5.9～で Windows10 まで対応しています。Sentinel SuperPro の開発環境 (SDK v7.1) は Windows7 まで対応しています。プロテクトされたアプリケーションは Windows8/8.1/Server2012/Windows10 のデスクトップモードでのみ動作します。

Q: Sentinel SuperProの開発環境は はWindows8/8.1/2012/2012R2/Windows10に対応していますか？

A: 対応していません。

Q: Sentinel HL SuperPro modeのUSBキーとSentinel SuperPro USBキーは互換性がありますか？

A: 完全互換です。

Q:Windows8/8.1/2012/2012R2/Windows10上でFieldExchange Utilityが正しく表示されません。

A: FiledExchange Utilityを含むSDK(開発キット) v7.1のモジュールはWindows8以降のOSに対応していないため、正しく表示されません。

Q: Sentinel SuperPro は仮想環境での動作をサポートしていますか？

A: Sentinel SuperPro は仮想環境での動作を保証しておりません。実行環境で起こりうる問題はサポート対象外となります。

Q: キーへの書き込み (Write/Overwrite) ができません。

A: Password Counterがゼロになり、キーへの書き込みがロックされている可能性があります。Developer Codeをセットした状態でRNBOsproGetKeyInfoExコマンドを発行し、SuperPro KeyのWrite Password Counter および Overwrite Password Counter の値を確認します。ゼロの場合 SuperPro Key はロック状態にあり、Write または Overwrite コマンドはエラーを返します。各Counterの初期値は15です。

(確認方法 : 本ドキュメント > Sentinel SuperPro Evaluation Program > 利用例2)

Note: 誤ったパスワードをセットしコマンドを発行するとCounterはデクリメントされますが、正しい値のコマンド発行により、初期値にリセットされます。

Note2: ロック解除には、弊社に SuperPro Key を返却いただく必要があります。また、ロック解除後SuperPro Key のシリアル番号は変更されます。

Q: Sentinel SuperProの今後の開発ロードマップを教えてください。

A: Sentinel SuperPro の開発は既に終了しており、メンテナンス状態に置かれた製品です（最新版 Sentinel SuperPro 7.1 + Service Pack1, 2016/末）。したがって、ご利用にあたり以下の点にご留意下さい。

- 新規リリースされるOSや開発環境（Visual Studio）へのサポートがタイミング遅れる、またはサポートしない
- 製品のご利用に不都合が発生しても、十分な技術サポートを提供できない場合がある

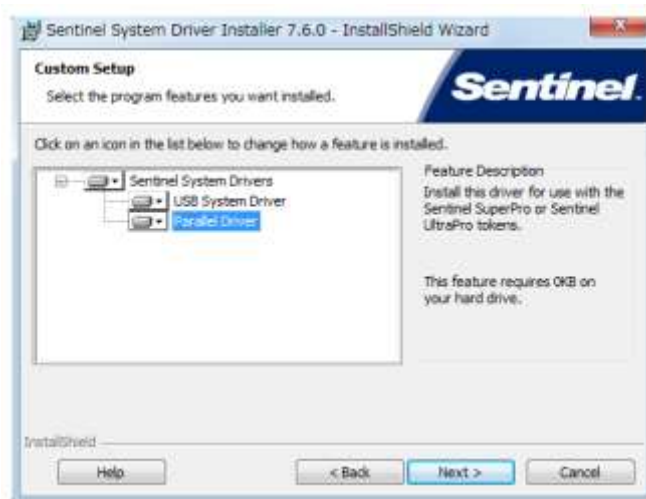
Note: USB dongleを採用する製品として、Sentinel LDKが現在アクティブな製品となっています。ただし、USB dongleレベル、プロテクトしたアプリケーションおよびドライバに互換性はありません。詳細は以下の製品の紹介ページをご覧ください。

Sentinel LDK: <http://support.safenet-inc.jp/srm/product/ldk/index.html>

Q: Sentinel System Driver 7.6.0 (Sentinel Protection Installer 7.6.9) に更新後、アプリケーションがキーを認識しません。

A: SSD 7.6.0 では、標準インストールには Parallel Driver のインストールが含まれていません。旧開発キット（例 SuperPro 5.1）でプロテクトしたアプリケーションはUSBタイプのキーの認識にもParallel Driver が必要なため、認識に失敗することがあります。回避策として次の選択があります。

- 開発キットを更新し、アプリケーションを再度プロテクト
- SSDインストーラを再起動、Setup Type : Custom を選択しParallel Driver を追加



Q: Windows 10 1803 以降の環境でSuperProキーがアプリケーションから正常に認識されません。

A: 同アップグレードに伴いWindows API の振る舞いに変更され、その結果SuperPro API が同OS ビルドバージョンを未サポートのOS として認識します。その結果、SuperPro APIは次の戻り値を返します。

- SP_OS_NOT_SUPPORTED (19)
- SP_DRIVER_NOT_INSTALLED (12)

対策として、同OS 環境に対応するクライアントライブラリ（バージョン7.1.0.12）を利用し、アプリケーションを再ビルドします。パッケージは以下のサイトで入手可能です。各種コンパイラ用に複数のバージョンが提供されています。

Sentinel SuperPro Client Library 7.1.0.12-14 (Windows 10 1803対応)

https://gemalto.service-now.com/csm?id=kb_article_view&sysparm_article=KB0016594

Q: ライブラリを ver.7.1.0.12-14 に更新後、リモートデスクトップ経由でアプリケーションが起動しません。

A: 同ライブラリではデフォルトではデフォルトの設定ではリモートデスクトップ利用を検知した場合ライセンス要求を許可しません。このため、リモートデスクトップを含むターミナルサービス経由のリクエストを許可するにはアプリケーションのプロテクトの際に次の設定をします。

API実装の場合：

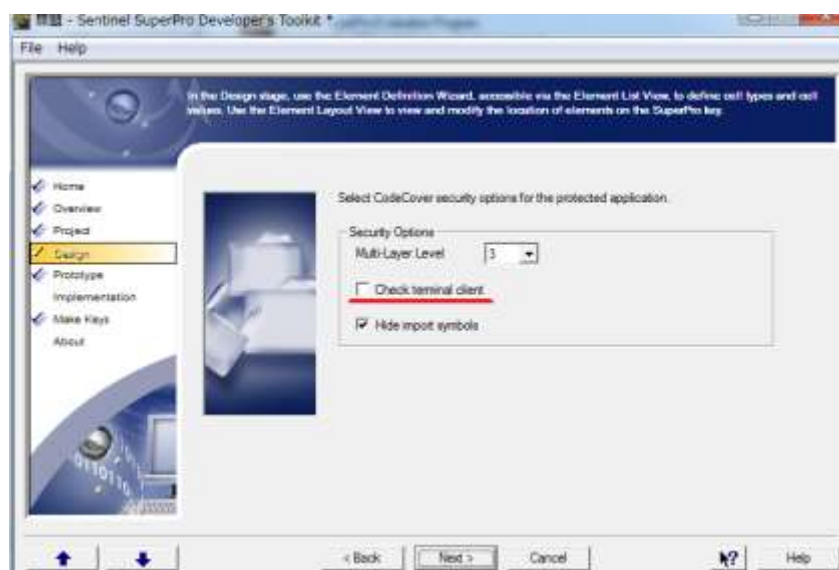
RNBOsproFindFirstUnit() の前に以下の関数を挿入します。

RNBOsproCheckTerminalService()

第2引数：SP_TERM_SERV_CHECK_OFF

CodeCoverの場合：

Check terminal client のチェックボックスを外します。



CodeCover について：

Q: CodeCover (旧 Shell) はどのようなファイル形式に対応しますか？

A: 実行形式のファイル (com/exe/dll) が対象となります。

ただし、実行形式ですが、以下のようなファイルには CodeCover がかかりませんのでご注意ください。

- ActiveX DLL
- OCX コントロールを含んだ EXE

- 暗号化された DLL

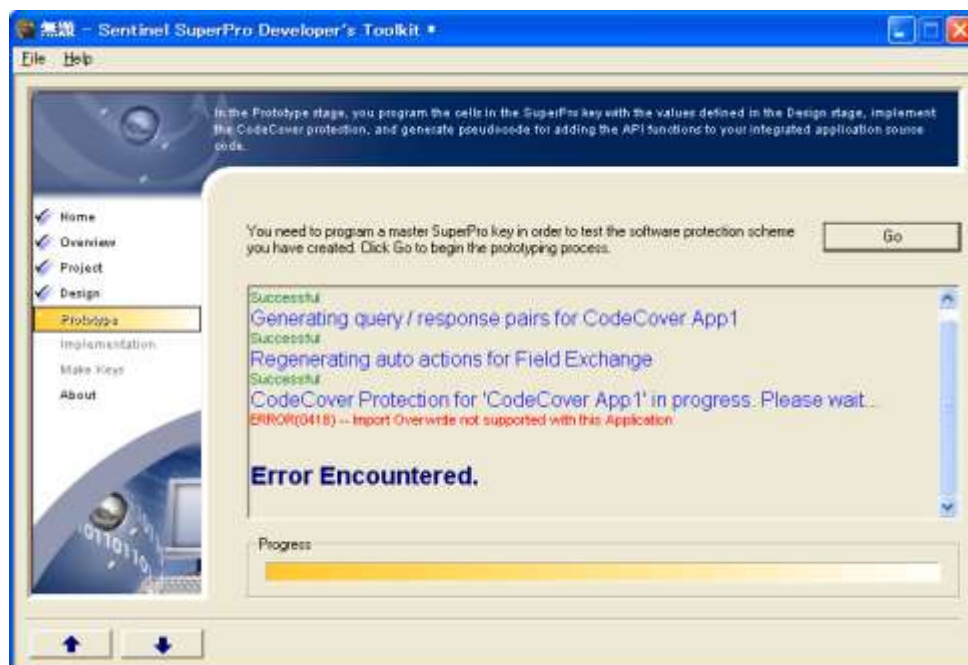
Q: CodeCover で使用時間制限を行った場合、誤差はどの程度出ますか？

A: 使用時間制限機能は、アプリケーションが使用できる時間を制限できる機能です(日、時、分)。

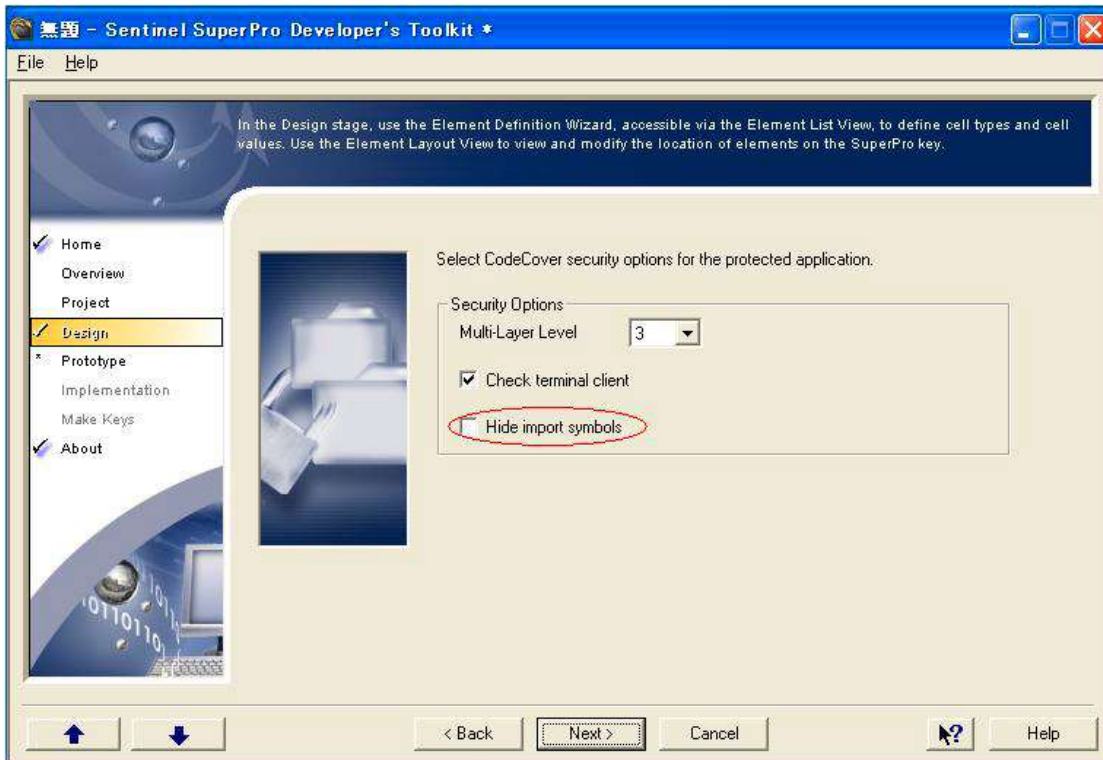
タイマーはアプリケーションが最初に実行されるときに始動し、カウンタ・セルを使用します。

例えば、使用時間制限を 10 分に設定すると、カウンタ・セルの値は 2 です(5 分ごとに 2 つ減分)。ユーザが最初にアプリケーションを実行すると、カウンタはすぐに 1 つ減ります(5 分)。5 分後、カウンタは再び減り 0 になります。この時点でアプリケーションは、ユーザが閉じるまでは何時間でも引き続き使用できます。ただしいったんユーザがアプリケーションを閉じると(10 分経過する前でも)、カウンタが一に 0 になっているので再度実行することはできません。したがって、使用時間として設定した時間よりアプリケーションの実行時間が短い、あるいは長いということはありません。

Q: .NET アプリケーションの CodeCover プロテクトに失敗します(Error0418)。原因はなんですか？



A: .NET アプリケーションをプロテクトする場合、CodeCover のSecurity Options のHide import symbols のチェックを外して実行してください。



Sentinel SuperProNet の FAQ

Q: SuperProNet とは？

A: SuperProNet は、SuperPro のネットワーク対応バージョンです。

Sentinel SuperPro は機能を満載した操作性の高いソフトウェア・プロテクション・システムを提供し、さらに開発者がデモ・ソフトの使用制限回数の増加やデモ版から製品版へのアップグレード、機能の追加を実施するのを可能にします。 そのために新しいハードウェア・キーを出荷したり顧客を訪問する必要はありません。

SuperProNet はさらに追加機能を提供します—複数のクライアントに 1 つのキーを使う機能です。 また SuperPro ソフトウェアを使用すると、代理店専用としてキーをプログラミングできるため、代理店が製品キーを何回起動・更新できるかを制限できます。

Q: SuperProNet ハードウェア・キーを使ってプロテクトしたアプリケーションはどうやってインストールするのですか？

A: アプリケーションが完成し、製品キーをプログラミングしたら、プロテクト済みアプリケーションを代理店や顧客に出荷できます。

SuperProNet でプロテクトしたアプリケーションをインストールするには、ネットワーク上の PC を一台選んで SuperProNet キーを接続し、SuperPro Server をロードします。 必ず最新版の Sentinel System Driver をインストールしてください。あまりリブートされないためネットワーク・サーバがおすすめです。詳細は SuperPro のマニュアルを参照してください。

Q: SuperPro Server(Sentinel Protection Server)は何をするのですか？

A: Sentinel SuperPro サーバはプロテクト済みアプリケーションのライセンスとセキュリティを管理します。

このサーバはネットワーク上で開発者のアプリケーションを実行しているクライアントとハードウェア・キーをつなぐもので、開発者が計画したプロテクト戦略で使われる API 関数に回答します。プロテクトしたアプリケーションをコンカレント・ライセンスを使ってネットワーク上で実行する場合、エンド・ユーザは SuperPro Server をハードウェア・キーが接続されるマシンにインストールする必要があります。

Q: プロテクトしたアプリケーションはどうやって SuperProNet ハードウェア・キーと通信しますか？

A: SuperPro を使ってプロテクトしたアプリケーションをネットワークで使用する場合、ライセンス取得後にソフトウェア・ロックがネットワーク上で実行されます。

1. 開発者のアプリケーションがハードウェア・キーの認識のためコールを送ります。キーがユーザのローカル・システムで認識されると、ソフトウェア・ロックが実行されます。
2. キーがユーザのシステム上で認識「されない」場合、アプリケーションがブロードキャスト・メッセージをネットワークに送り、SuperPro server を探します。
3. 認識されるとサーバが Sentinelドライバにクエリーをかけ、サーバの外部ポートに接続されたハードウェア・キーからライセンス・リミットを取得します。
4. ドライバがキーのライセンス・リミットを読み取り、それをサーバに返します。

5. サーバがライセンスを許可するかどうかを判断し、それから開発者のアプリケーションにライセンス情報を送ります。
6. ライセンス取得後はアプリケーションが断続的に「心拍」メッセージを送り、ライセンスを維持します。心拍メッセージの送信に失敗するとライセンスが解放され、アプリケーションにエラーが戻されます。
7. アプリケーションの要求に応じ、キーとの通信の許可としてライセンスを使用し、ソフトウェア・ロックが実行されます。
8. すべてのソフトウェア・ロックが終了するとアプリケーションがサーバを通じてライセンスをキーに戻し、ライセンスを他のクライアントが取得できるようにします。

Q: SuperProNet キーを認識できず、プログラムが“key not found”(キーが認識されません)というメッセージを返します。どうすればいいですか？

A: まず SuperProNet キーが接続されているか、またサーバ・アプリケーション(Sentinel Protection Server)が実行中かを確認します。

確認後も“key not found”が戻されるようなら、次に最新のドライバがインストールされているかを確認します。Sentinel SuperPro/Sentinel Hardware Key の System Driver のバージョンは 7.5.9 です。

Q: SuperProNet を接続するマシンで使用するサーバ・プログラム(SpronetServer)のリソース消費量は？

A: SuperProNet Server プログラムが消費するリソースは下記のとおりです：

メモリ ~364K、ハード・ディスク容量 ~200K

Q: Sentinel Advanced Medic ユーティリティは SuperProNet の問題解決にどう役立ちますか？

A: Sentinel Medic は、弊社テクニカルサポートが提供するユーティリティです。このユーティリティは起こっているエラーの判断に役立ち、生成されるエラー・コードを基にエラーを修正する手順を提供します。また弊社テクニカルサポートに連絡する場合も問題解決がはかどります。

Q: SuperPro Monitoring Tool とは何ですか？

A: SuperPro Monitoring Tool を使用するとネットワーク上で SuperPro サーバの情報を表示し、追跡できます。

このツールの機能は次のとおりです：

- インストールされている実行中の SuperPro サーバをすべて表示
- 使用できる各サーバのアドレスとバージョンを表示
- 使用できるサーバに接続された各キーを表示
- 各キーのハード・ライセンス・リミットを表示
- 使用中のライセンス数を追跡
- キーが発行したライセンスの最大数を表示
- キーからのライセンスを使用しているクライアントについて、サーバが記録したタイムアウト数を監視

Monitoring Tool はネットワーク上のライセンスの動きを表示し追跡するのに便利な手段で、アプリケーションの利用を分析できます。例えば、ライセンスの要求に基づいて十分なライセンスを購入したかどうかを判断するのに Monitoring Tool を使用できます。

Q: どのサーバが特定の SuperProNet 環境にログインしているかはどうすればわかりますか？

A: Monitoring Tool を開始すると、自動的にネットワークをスキャンして SuperPro サーバを探します。

約 2、3 分かかります。サーバが見つかるとうインドウの左側のサーバ・リストに表示されます。

サーバについての詳細を表示するには、リストのサーバの上をクリックすると右側に次の情報が表示されます：

- サーバ名
- サーバのプロトコル (TCP/IP または IPX/SPX)
- サーバのアドレス (プロトコルが 2 種類なら両方)
- サーバのバージョン
- サーバに接続されている各キーの情報

Q: 2 つの同じ SuperProNet キーを 1 台の PC に接続できますか？

A: キーは 10 個まで 1 台のサーバの USB またはパラレル・ポートに接続できます。パラレル・ポート・キーは 5 個まで 1 つのパラレル・ポートに接続できます。ネットワーク上で使用できるサーバの数は無制限です。

このように、ネットワークのコンカレント・ライセンス・リミットの合計は全サーバに接続されたキーすべてのリミットの合計です。ユーザがプロテクト済みアプリケーションにアクセスしようとし (アプリケーションがデフォルトのデュアル・モードで実行されていると仮定)、最初のサーバが既にライセンス・リミットに達している、SuperPro が自動的に別のサーバ上の最初のキーをチェックして使用できるライセンスを探します。複数のサーバを使用するとシングル・ポイント障害の防止に役立ちます。

Sentinel SuperPro Evaluation Program (sproeval.exe)

SuperPro SDK に含まれる評価用ツール: sproeval.exe を利用し、API を利用する感覚で SuperPro Key に対して任意のコマンドを発行することができます。いくつか利用例をご案内します。

使用例 1: Standalone Key のメモリの内容を確認したい

SuperPro Key を装着した状態で sproeval.exe を起動し以下の順でボタンを押下します。

操作 1: [FormatPacket]

操作 2: [Initialize]

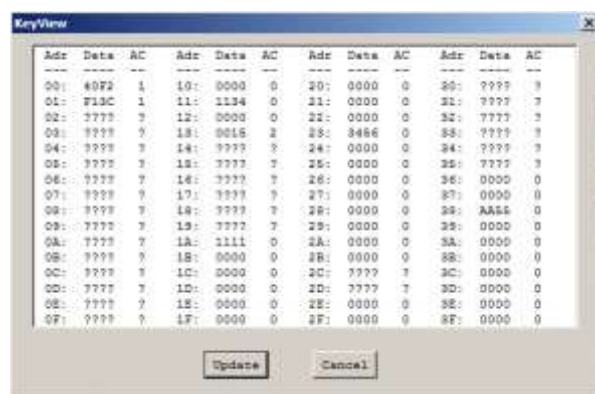
操作 3: [FindFirstUnit] > Developer ID を HEX 形式で入力し[Find]

操作 4: [KeyView]

下のイメージ (KeyView 表示) が子ウィンドウとして表示されます。(“?”のセルは、アクセスコードが隠し属性 またはアルゴリズム実装のため、表示されません。)



Sproeval 起動イメージ



KeyView 表示

利用例 2: Standalone Key の Password Counter の値を確認したい

例 1 と同じく、ツールを起動します。以下の順にボタンを押下します。

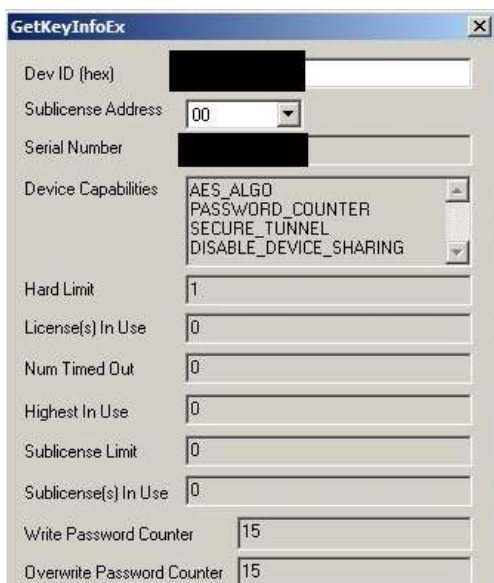
操作 1: [FormatPacket]

操作 2: [Initialize]

操作 3: [SetDeveloperCode] > Hex 形式に変換した Developer Code をテキストボックスに入力

操作 4: [FindFirstUnit] > Developer ID を HEX 形式で入力し[Find]

操作 5: [GetKeyInfoEx] > [NextKey] で下画面が表示されればコマンドは成功です。同画面の Write Password Counter および Overwrite Password Counter の値が 0-15 の範囲であれば正しい値が反映されています。DeveloperCode の手順をスキップするとこの値を取得できません (255 と無効な値が表示されます)。



GetKeyInfoEx の表示イメージ

Note: Delveloper Code を sproeval.exe で利用するには、事前に SuperPro Toolkit を利用し Hex 形式に変換する必要があります。変換方法の詳細は SDK の開発者ガイド:

SentinelSP Developer's Guide

- > Chapter3 Working With SuperPro Software Keys
 - > Converting the Developer Code をご参照下さい。

サポート問い合わせ時に必要な情報について

次の情報をご明記のうえお問い合わせ頂くとスムーズに運びます:

- エラーメッセージ、スタータスコードなどの正確な現象(できるかぎり画像で)
- 実行環境の情報(OS、Sentinel Driver のバージョン、使用中のキーモデル、ライセンスの種類等)
- 発生状況(何をどのように実施したか、その環境で初めての実施か、それとも稼働実績ありか等)
- 開発時の情報

PartNumber(キー背面に記載、SGSXXXXX、NETXXXXX 等)

プロテクトした Sentinel SuperPro SDK のバージョン

プロテクト方法(CodeCover or API)

Copyright 2010, Nihon SafeNet K.K.

Copyright 2020, Thales DIS CPL Japan K.K.

All rights reserved.

<http://support.safenet-inc.jp/srm/>

本書に記載される情報は完全かつ正確であるように最善を期しています。本書の誤りまたは情報の欠落による直接的または間接的損害、または事業の損失に対し、SafeNet, Inc. は責任を負いません。本書に記載されている仕様は、予告なく変更される場合があります。

SafeNet、Sentinel は、SafeNet, Inc. の商標または登録商標です。

本書で言及しているその他すべての製品名は、各社の商標または登録商標です。

2020 年 3 月